

1 美術科（A表現）で目指す生徒の姿

主題と表現を往還しながら考えを深める生徒

2 美術科の研究テーマ

主題を生み出し、構想する力を高める学習の在り方

3 研究テーマの具現に向けて

題材「校内 Re デザイン」（令和 6 年 12 月・2 年）では、委員会活動として全校に呼び掛けたいことについて、主題を生み出し、伝わりやすさと美しさの調和を総合的に考え、表現の構想を練る学習を構想した。そこでは、「構想シート」に整理した「自分の願い」、「学友の願い」、「デザインの造形要素」を相互に関連させて考えたことを基に、主題と表し方を考える展開を位置付けた。K 生は、「自分の願い」、「学校や友の願い」、「デザインの造形要素」から主題を生み出し、デザインの具体的な方向性やコンセプトを考えた。そして、「見た人が右側歩行を意識するようなポスターにしたい」という主題を基に、友に伝えたいことが伝わるよう、デザインの配色や配置を工夫した。さらに、表現したことと主題との結び付きを考えながら、委員会活動に関するポスターを作成した。このような K 生の姿を、美術の研究テーマを具現した姿と捉えた。

そこで、「身近な場所を Re デザイン」（3 年）の題材において、使う人の願いや立場から主題を生み出し、使いやすさと美しさの調和を総合的に考え、表現の構想を練る学習を構想する。そこでは、「構想シート」（図 1）に整理した「自分の願い」、「学友の願い」、「デザインの造形要素」を相互に関連させて考えたことを基に、表し方を考える展開を位置付ける。生徒は、身近にある場所やものについて、自らの生活体験の中で感じている使いにくさや見た目の課題に気付いたり、学友のアンケートから、友の感じている使いにくさや見た目の課題を理解したりするだろう。そこから、デザインをし直したい（以後：Re デザイン）場所やものを決め、造形要素に着目し、既知やユーモアを交えながら主題を生み出し、機能性や見た目の美しさの具体的な方向性と、コンセプトについて表現しながら構想を練ることができるだろう。そして、表わした表現と主題との結び付きを往還しながら、考えを深めることができるだろう。

このような学習を積み重ねていくことで、美術の研究テーマを具現し、目指す生徒の姿に迫ることができる考えた。

図 1 構想シート

4 題材名・学年

「身近な場所を Re デザイン」・3 年

5 題材の目標 ※【 】内は、中学校学習指導要領との関連を指している

- (1) 形や色彩、材料などの特性や効果などの理解を深めるとともに、材料や用具、表現方法の特性を生かし、意図に応じたデザインに表すことができる。

【A 表現 (2) ア(ア) (イ) [共通事項]】

- (2) 使う目的や条件などを基に、機知やユーモアなどから主題を生み出し、機能と美しさとの調和を考え、表現の構想を練るとともに、目的や機能との調和のとれた美しさなどを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めることができる。

【A 表現 (1) イ(ウ)、B 鑑賞 (1) ア(イ)】

- (3) 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく目的や機能などを基に表現したり鑑賞したりする学習活動に取り組もうとしている。

6 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知 形や色彩、材料などの特性や効果などを理解している。 技 材料や用具、表現方法の特性を生かし、意図に応じたデザインに表している。	思 使う目的や条件などを基 ①に、機知やユーモアなどから主題を生み出し、機能と美しさとの調和を考え、表現の構想を練っている。 思 美しさなどを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫について考えるなどして、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態 美術の創造活動の喜びを味わい、楽しく目的や機能などを基に構想を練ったり、意図に応じて自分の表現方法を追求し、創造的に表したりしようとしている。 態 美術の造形活動の喜びを味わい、主体的に造形的なよさや美しさを感じ取り、作者の表現の意図と創造的な工夫について考えるなどの見方や感じ方を深める鑑賞に取り組もうとしている。

7 主題を生み出し構想する力を高めるための題材の手立て

- ・「構想シート」に整理した「自分の願い」、「学友の願い」、「デザインの造形要素」を相互に関連させて考えたことを基に、主題と表し方を考える展開を位置付ける。

8 題材展開 使う人の願いや立場から主題を生み出し、使いやすさと美しさの調和を総合的に考え、表現の構想を練る学習

全 10 時間扱い 本時は第 7 時

段階	◆ねらい ○「評定に用いる評価」 ●「学習改善につなげる評価」 教師の指導・支援	評価の観点	時間
導入	◆題材の学習問題を設定する ・学校内や学校敷地内にある場所やものなどの様々なデザインに目を向け、Re デザインしたいものがあるかを問い、校内の改善したい場所やものなどを探す時間を設ける。 ・事前に教師や学友にとったアンケートの結果を示し、Re デザインが望まれている場所やものについて提示する。 ・題材の学習問題「身近にある場所やものを Re デザインし、デザインの力で身近な場所をよりよくしよう。」を設定する。	●知 ●態 ●鑑	1
展開	◆構想シートの活用方法を知り、学習活動の見通しをもつ ・Re デザインを考える上で、目的や条件を基に、「自分の願い」「学友の願い」「デザインの造形要素」からデザインの主題を生み出し、「構想シート」に整理しながら表現していくことを生徒と共有し、本題材の題材展開の概要を確認する。 ◆身近な場所を Re デザインしていく（発想や構想～表現） 「自分の願い」「学友の願い」「デザインの造形要素」からデザインの主題を生み出す。（場面 A） 主題を基に、どのように Re デザインし、表していくか発想、構想をする。（場面 B） 構想した Re デザインを表現し、主題との結びつきを確認しながら、よりよい Re デザインにするため、さらに構想を繰り返す。（場面 C） ・造形的な要素（形状、配色、素材、大きさ、向き、組み合わせ、配置）について、示範作品や資料などを教室に配置し、生徒がいつでも確認することができるよう環境を準備しておく。 ・生徒が自由に友の構想に触れたり、意見交流ができたりするように、活動場所を制限せず、自由に活動場所や活動内容を選べることを伝える。 ・構想と表現の振り返りを毎時間行う場を設ける。 本時は展開の中の第 7 時（本時案参照） ・お互いの表現を見合ったり、使ったりしながら、相互評価する場を設ける。	●知 ○技 ○思① ●思② ○態 表	2 ～ 9
終末	◆題材の学習を振り返り、題材のまとめをする ・題材の学習を通して、デザインを構想していく上で大切なことを全体で共有し、題材の学習問題に対する考えをまとめる場を設ける。	○知 ○思② ○態 鑑	10

本時案		・生徒の活動の内容や様子 ◆教師の支援		時間
	A生（観点：美しさとユーモアの調和）	B生（観点：機能性を高める素材）	C生（観点：環境の美しさ）	
Re デザインの主題	体育館通路のドアストッパーを体育館に合った模様にデザインしたい。	昇降口の傘立てを、傘を入れてもバラバラにならないデザインにしたい。	武道場までの通路を、通る人が気持ちよく利用できるデザインにしたい。	40
本時予想される主な場面	体育館通路のドアストッパーのイラストを表現しつつ、改善点がないか構想する。（場面 C） 	昇降口の傘立てを、傘が斜めに差さらないように仕切り部分を設置し、試す。（場面 B） 	前時見直してきた、主題と表現との結び付きの改善点を基に、新たに主題を更新する。（場面 A） 	
1. 学習活動	- 段ボールの箱の周りに体育館のイメージに合ったデザインを構想し、表してきた（前時まで）。 - 体育館は体を動かしたり、音楽集会で歌を歌ったりするイメージが強いから、バスケットボールの絵でデザインされた面と、音符の絵でデザインされた面で、裏表に描いてみた。 - 体育館に合った模様にしたいと考えデザインの絵を表現したが、これらの絵でよいのだろうか。 - 友は、もっと気持ちが引き締まるような色合いを用いた方がよいと言っていた。絵の背景部分を、黒やグレーなど彩度を下げていこう。このデザインだと、主題がまた変わりそうだ。	- 仕切り部分をどの位置に、どのように設置するか、デザインの構想を練ってきた（前時まで）。 - 傘がバラバラにならないためには、傘を入れる口の部分から傘を入れた時、仕切りのような壁を付けることで、傘は真っすぐ差さるようになる。 - 傘を入れても、自分の傘が見分けられるように、透明で水をはじくアクリル板を使って仕切りの壁を付けてみた。こうすることで、傘がバラバラになってしまうことが防げそうだ。 - 友の提案のように、針金を張り巡らせて、アクリル版の仕切りを強化することができそうだ。そうすることで、より頑丈な傘立てになりそうだ。	- 内壁のビニールシートの汚れているところで、絵や模様を設置するかアイディアを出してきた。位置や大きさを構想することまで見通しをもった（前時まで）。 - 外の日の光が入り込む場所なので、外の景色をイメージした風景画や、草原をイメージした模様にしてきたが、光が明るすぎて、附中の雰囲気に合わない気がする。 - 友の提案のように、もう少し明度を下げて、落ち着いた雰囲気の壁のデザインにした方がよいと感じた。 - この場所のデザインの主題を、「通る人が、落ち着いて、気持ちよく利用できるようなデザイン」に更新したい。	
◆教師の支援の在り方：場面 A、場面 B、場面 C の様々な生徒の活動に合わせ、考えの深まりを促すよう個別の支援に徹す				10
◆色や形、素材や場との調和、機能性など、表現と主題との結び付きについて総合的に見直すように助言する。		◆設けてある素材置き場へ行くように促し、定まってきた構想をもう一度見返すように個別に声掛けをする。	◆主題の更新に寄り添いつつ、色見本などの資料を提示しながら、新たな表現の方向性について助言する。	
2. 次時への見通し	重りとしての機能だけでなく、実際に活用する具体的な場面を想定した取手のアイディアが参考になった。次回は、横に取手を設置したい。どのような素材を使って取手をつければよいのか、様々な素材で試してみたい。	針金だと、曲がってしまったり、アクリル板をさらに歪めたり可能性があるかもしれない。何か違う素材でもアクリル板の仕切りの教科ができないか、試してみたい。また、どのような張り巡らし方がよいか考えたい。	私の描いてきた絵の内容と、友の絵との調和を想定していなかった。友のデザインしたものを実際に展示しながら、どのような通路になるか、実際に展示しながら絵と場との調和について確認する必要があるそうだ。	